

2018年度 教育活動等に関する学校評価書

社会福祉法人愛の園福祉会
幼保連携型認定こども園
幕張海浜こども園

1. 教育目標

すべての人は例外なしに「神によって創造された存在である」という理解をもって、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針と定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。

<基本方針>

- ① 心の清い正直な人間（良心教育）
- ② 心の豊かな明るい人間（情操教育）
- ③ からだの丈夫な強い人間（健康教育）
- ④ 動作の機敏な人間（安全教育）

2. 本年度の重点課題

- ・配慮を要する子どもの育ちを支援する保育の充実。
- ・3歳未満児クラスにおける保育の環境構成と子どもの関わり方について研究し、個々の子どもの安定した成長の保障を図る。
- ・3歳以上児クラスにおける保育の環境構成や活動・教材についての研究し、子どもの発達・学習が促進される保育・就学前教育を計画的に実践する。
(教材研究、保育の準備、話し合い、記録、次月準備の時間の確保など)
- ・課題の改善(保育者間の連携・協働)の工夫に努める。
- ・個々の保育者の資質向上・保育の力量を高めるための園内公開保育、勉強会を計画的に実施する。
- ・キリスト教保育について、経験層ごとに学びを深め実践できるようにする。（キャリアパス研修の実施）
- ・3歳以上児の定員を確保するため、地域の小規模保育園との連携を図る。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価は、S(十分に成果があった)・A(成果があった)・B(少し成果があった)・C(成果がなかった)・E(取り組みが行われていない)で表している。)

評価項目	具体的な取り組み		自己評価			学校関係者評価委員会	
			評価結果	評価内訳	こども園としての反省と改善策	評価	意見
教育保育方針	1	事例検討会を実施し、職員間の共通理解を図る	B	B7	全体会議の内容を事前に具体化し周知をし、時間内で終わられるようにする。今後も伝達方法を検討していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談では子どもの園生活の様子について、詳しい説明や的確なアドバイスを職員が行っており日頃から個別支援をしっかりとしていると感じる。 また、必要に応じて、専門機関との連携も密に取っている様子が伺える。 ・食育の取り組みでは「世界のおやつ」などを通して保育に結びつけ、興味を持つ事が出来ていると感じる。 ・経験層ごとのキャリアパスの取り組みでは、評価の内訳の幅が広く、各職員の捉え方に差がある事が読み取れる。今後はねらいや目標をさらに明確にして、キャリアパスに取り組む職員の意識を統一する事が求められる。
	2	個々の特性に配慮した発達支援の実施	S	S4 A3	個々の特性に配慮した発達支援を行なっている。今後は個々の特性に配慮した支援の仕方を周知していけるようにしていく。	S	
	3	専門機関との連携を密にする。	A	A7	必要に応じて専門機関との連携も密に行なっている。今後も専門機関との連携を行なっていきたい。	A	
	4	個々の子どもの発達に合わせたカリキュラムの作成や丁寧な保育について、研修し実践する。	C	B3 C4	個人の目標やカリキュラムの作成、保育の在り方について意識して保育を行なっている。今後の期待として、全職員が保育カリキュラムや具体的な保育方法について理解し、実践に繋げていく。	C	
	5	栄養士と保育者が連携をとり、子ども達に経験して欲しい活動や学びを保育内容に具体的に降ろす。	B	B6 C1	年間の食育計画書を作成し、計画的に行なっている。今後の期待として収穫時期に合わせて保育者と連携をとりながら計画、企画をしていきたい。	B	
	6	経験層ごとのキャリアパス会議を定期的に行い、聖書の理解やキリスト教保育、聖句についての学びを行う。また、それらの学びを各クラスに降ろし、実践する。	B	S1 A2 B4	年齢層ごとにキャリアパス会議を定期的に行ない、キリスト教保育、聖書などの学びを深めたことで、職員の意識や子どもへの伝え方などに変化が見られるため、引き続き聖書の学びを通して、その内容と考え方を理解し各年齢別に伝えられるようにしていく。	B	
	7	主体性や自己肯定感を育むための関わり方についての学びを深め、主体的な生活を送れるよう環境作りを行う。 園だより、クラスだより、懇談会等を通して、園の保育方針や保育内容を保護者に伝える。	C	B3 C4	各年齢の保育環境について検討したが、実践に至らない点もある。又、各便りや保護者懇談会を通して保育内容を伝える事ができている。今後も活動の目的やねらいが具体的に伝わるようお便りやブログ等の記載内容を工夫する必要がある。	C	

評価項目	具体的な取り組み		自己評価			学校関係者評価委員会	
			評価結果	評価内訳	こども園としての反省と改善策	評価	意見
特色ある保育の展開	8	絵本の充実・整備を行う。	B	B 7	絵本の充実は出来ており、季節ごとの絵本も保育に活用出来ている。整備の仕組みが出来ていない事が課題。	B	<p>・地域との交流に関する項目については全てC評価となっており、地域との交流活動を行っていないように見えるが、園解放やいきいきサロンを通じて交流を行なっていることから、評価基準を見直す必要がある。</p> <p>また、実施にあたっては、職員の負担が少ないように年間計画の中に地域交流の取り組みを組み込んでいくことが課題である。</p> <p>さらに、園の取り組みを地域に向けて発信する方法も検討が必要。PC、スマートフォン上での閲覧だけでは高齢者の方々に向けての周知が難しいことから、地域の回覧板等を活用する方法も考えていく。</p>
	9	「表現」「言葉」の領域の遊び、活動(音楽・手遊び・絵本等)に対して研修を行い、内容を充実させ、育ちの成果を披露する機会(演奏会)を計画する。	S	S 7	前回同様、手遊びは全体会を通して職員が共通理解を持ち、幼児組ではクラス演奏会で発表する機会を設けた	S	
	10	近隣の高齢者の方々との交流の機会を持つ。	C	B 2 C 5	地域の方との交流が年間を通して行なえていないので、機会を増やしていけるよう計画する。	C	
	11	気軽に育児相談が出来るような体制や環境作りをする。	C	C 7	日頃から保護者の思いを汲み取り、園全体でサポート出来るよう、職員同士が連携していく必要がある。	C	
	12	地域の子育て家庭に園を開放し、気軽に遊びに来ることが出来る計画、準備を行う。	C	C 7	改善はまだ出来ていないので、多くの方に来てもらえるよう、周知をしっかりと行なっていく。	C	
	13	一時預かり保育についてニーズ調査を行い、質の向上を図る。	C	C 7	一時預り保育の質を高めるために、ニーズ調査実施に向けての検討を行う事が必要。	C	
保育環境の充実	14	3歳以上児クラスにおける保育室が「教育的配慮のある環境構成」になるように工夫・改善する。	B	B 5 C 2	現場に降ろし切れていない部分があるが、幼児組職員で話し合った内容を保育現場で実践している。その成果として、子どもたちが指定の場所で特定の遊びが出来る様にパーティションで区切ったり、空いている棚に自分で考え工夫して物を片付けられたりするようになってきた。引き続き、玩具を自ら選んで遊べるような環境作りを行なう。	B	乳児組に比べて室内用の玩具が少ないように感じるが、その分、体を動かす活動や教材を使用した活動を行なっていることを考えると適切であると感じる。遊びのコーナー分けや玩具の整頓は今後も検討を重ねていき、調整が求められる。

評価項目	具体的な取り組み		自己評価		学校関係者評価委員会		
			評価結果	評価内訳	こども園としての反省と改善策	評価	意見
保護者との連携	15	保護者が読みやすく、また園全体の動きや子ども達の様子が分かりやすく伝わるよう、園だよりやクラスだよりを工夫する。	A	A 6 B1	保育内容など保護者に伝えたいことを各職員が絞って伝えられるようになってきた。又、クラス担任、園長や主幹保育教諭に見てもらい、工夫出来るように取り組んできた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の様子をブログやFacebook ページに掲載する事で子どもの様子を知ることが出来ていると感じる。課題として定期的に掲載できるように目的や頻度を明確にして取り組んでいく必要がある。 ・園として個人面談期間外でも必要に応じて面談を設けているため、保護者としては安心出来る。 課題として車送迎の保護者については面談時間が取りづらい為、事前に時間を保護者と打ち合わせしておく等の配慮が求められる。 ・車送迎による路上駐車の問題については保護者会にも協力を求めながら働きかけを工夫していく必要がある。
	16	毎日の子どもの様子を伝えるため、ブログやFacebook ページ、クラス掲示板の充実を図るための検討を行う。	C	C 7	ブログの継続更新が出来ていないので継続して出来る様、伝達方法の検討など継続出来るようにしていく。	C	
	17	保育参観（3歳未満児）や誕生参観（3歳以上児）を行い、子どもたちの成長を見る機会を持つ。	A	A 5 B 2	保育参観や個人面談、降園時を通して、園児の様子を伝えるなど、子どもの成長を見る機会を設けてきた。	A	
	18	個人面談の時を設け、保護者の思いを聞き、個々の様子について知らせる。	B	B 6 C 1	幼児組においては個人面談を設けているが、面談の時期や回数を検討していく。乳児についても実施出来るように検討をしていく。	B	
	19	降園時など、保育者から保護者に積極的に声をかけ丁寧な関係作りを目指す。	B	B 7	車送迎の保護者との関わりが持ちにくい。保護者から得た情報や園児の様子について職員同士が共有出来るようになってきた。又、必要に応じて職員同士が相談できる環境は整えられている。	B	
園児募集	20	ホームページや園パンフレットの内容を充実させ、定期的な更新を行う。	B	B 7	園見学では、主活動の時間など子ども達の様子が確認できる時間に変更した事で、様子を伝えられるようになった。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園見学は主活動の時間に案内をする事で園の様子をより分かりやすく伝えることが出来るため、今後も継続していく。
	21	園案内のパンフレットの見直しを行う。	B	A 3 B 4	利用希望者に園の保育内容等が伝わるよう、現在パンフレットの定期的な見直しと更新を行なっている。	B	
小学校連携	22	3歳児からの発達・学びの連続性を考慮した指導計画の作成・保育実践を行う。	A	S 2 A 5	指導計画を作り、保育実践を行えている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関や小学校との個人面談を行ないながら支援を行っており安心が出来る。 引き続き子ども一人ひとりにとってより良い環境づくりを実践していくことが求められる。
	23	支援の必要な子どもに対しての専門機関や保護者との連携を密に行う。	A	A 6 B 1	専門機関との関わりにより支援が必要な子どもの保護者に対してのアプローチができ、個人面談の時間を多く取る事が出来た。今後の課題として施設での様子や成長を共有出来るようにしていく。	A	

評価項目	具体的な取り組み		自己評価			学校関係者評価委員会	
			評価結果	評価内訳	こども園としての反省と改善策	評価	意見
保育者の 資質向上・ 連携	24	教材研究、保育準備時間等の確保を行い、子どもの学び・発達を保証する保育を実践する。	B	B7	教材研究時間や書類作成時間を持つ事が出来るようになってきた。今後の課題として保育準備の時間を持つ割合や時間の使い方を考えていく。	B	<p>・以前は職員の入退職が多い印象であったが、近年では離職する職員が少ない事を考えるとマネジメントの取り組みによる成果が出ているように感じる。</p> <p>職員の離職率の低下は利用者である保護者の安心感に繋がるため、今後も取り組みを継続する事。</p> <p>今後の課題は、正規職員と非常勤職員の間で保育に対する意識の差が大きい為、会議や毎日のクラス間ミーティングを通じて意識共有を図っていく事が求められる。</p>
	25	全職員が共通の思いと理解を持って保育の質の向上を目指せるよう、園内公開保育を行い、意見交換をし、保育を振り返る機会を持つ。	C	C7	保育の質を高める為、園内公開保育と職員間の意見交換の場を持つことが必要であるが、自己評価をしながら各職員が保育を振り返る機会を持つよう心掛けている。	C	
	26	乳児の個別計画、支援の必要な子どもの個別支援計画作りを充実させ、実践に生かす。	B	B7	個別の支援計画作成を行ない、それを実践に生かすことが出来ている。	B	
	27	一人ひとりの育ちを正しく見る視点を磨き、次年度を目標に、遊びによる育ちを理論づけていくための指標を作り、準備を進める。	B	A1 B6	指標を見ながら、クラス全体や特定の子について職員同士で検討をしてきた。今後の課題として、定期的に一人ひとりの目標を話せるようにしていく。	B	
	28	全ての職員が保育の質の向上を目指し、意識を統一できるよう、パート職員も日案の計画や反省に加わり評価を行う。	C	C7	キャリアパス会議を通じて、保育の質の向上を目指している。非常勤職員とは日案の計画や反省についての十分な話し合いが持っていないので今後の課題として意識を時間の確保を行なっていく。	C	
	29	一定期間に一通りのスキルを身につけられるよう、キャリアパス研修計画表に基づいた自己研修や全体研修を開催する。	B	B7	自己研修への参加や全体研修の企画などは計画通りに進められている。キャリアパス研修に参加した職員による、他職員への周知が出来ていないことがあり今後の課題とされる。	B	

評価項目	具体的な取り組み		自己評価			学校関係者評価委員会	
			評価結果	評価内訳	こども園としての反省と改善策	評価	意見
実習生受入れ	30	実習前オリエンテーションを実施し、子どもを見る視点や、実習のポイントなどを話し、実りのある実習へと繋げる。	S	S 7	園長による実習前のオリエンテーションの時間は十分に持ち、各職員とも実習生への関わり方についての確認も行なっている。実習から就職へ繋がるよう、指導方法の在り方を学ぶ必要がある。	S	養成校との連携を行ないながら就職に繋がるよう実習の受け入れを続けていく事が求められる。
	31	実習から就職に繋がるよう、実習生への関わり方について確認する。	B	B 7	2年次実習の受け入れが出来ていないため、直接的な効果は得られていないが、園の保育や勤務体制他について、実習時に伝えている。	B	
危機管理	32	これまでの防災訓練で出た課題をまとめ、今年度の訓練に取り入れる。	C	C 7	訓練で出た課題を保育者間で検討しながら行なってきた。防災訓練が定期的に行なえるようにしていく。	C	災害時の職員の役割に各職員が割り当てられているが、その役割を把握出来ているか確認する必要がある。 災害時に自治体がどのような体制を取っているのか把握した上で連携方法を検討していく。 避難場所である一本松公園へは年度初めに経路や位置関係を確認しているが、災害時に予想される経路途中の危険箇所について再確認を行う必要がある。
	33	災害マニュアルの見直しを行い、全職員が共通理解できるようにする。	C	C 7	災害マニュアルに関して、必要に応じてマニュアルの確認、把握をし、全職員が理解出来るようにする。	C	
	34	マニュアルが把握できているかなどの確認を、必要に応じて行う。	C	C 7	職員同士で必要に応じて確認を行なっている。今後は共通理解出来るようにする。	C	
	35	園内事故については、見守りカメラなどを活用しながら確実に原因を探り、再発を防ぐための早い対応をとる。	A	A 7	園内事故が起きた際は、見守りカメラを用いて職員全体で原因探り、再発防止案を考え対応している。	A	
	36	遊具点検の徹底化、ヒヤリハットを基にした具体的な園内研修を設け、事故防止に努める。	B	B 7	遊具点検の徹底の仕方個人差がある為、共通理解を図る。ヒヤリハットを基に、朝礼や全体会等を通し、話し合い事故防止に努めている。	B	
園経営全体の向上	37	毎朝の朝礼では当日の保育の確認、10分クラスミーティングでは翌日の保育の確認を行い、報告事項、保育計画の漏れがないようにする。	B	B 7	毎朝の朝礼では、当日の保育確認を行なうが、時折、伝達や記入漏れがみられる。また、クラスミーティングが実施できない事もあるので会議内容や時間を検討していく。	B	労務環境の見直しやクラスミーティングは大切な取り組みであることを意識しながら検討重ね、今後も継続していく事が求められる。
	38	一人ひとりのスタッフが自分の保育や言動に責任を持ち、良い連携の中で保育を行えるよう、現在の労務環境を様々な角度から研究し、成果をフィードバックする。	B	B 7	労務環境の見直しはその都度行ない、当事者間ではフィードバックを行ないながら環境を整えてきた。保育者の資質に関して、キッズリーを用いて自己評価を行ない、必要に応じて分析、検討は行なっている。	B	
	39	保育者の資質のバラつきについて分析・検討し改善する。	B	B 7	園長や主幹保育教諭を中心に当人と話し、質の向上を導いている。	B	